

第 1 特集

からだところの 診療を整理する

ところを診るときの「頭の中」

「先生、最近なんだか気力が湧かなくて……」，「胃がずっと痛いんですが，検査では異常なしと言われて」——プライマリ・ケアの外来には，こうした訴えが日々もち込まれる．器質的疾患を丁寧に除外しながら，ふと「この方の背景に，ところの問題が潜んでいないだろうか」と感じる瞬間は，現場の医師なら誰しも経験があるだろう．

しかし現実には厳しい．精神科や心療内科への初診待期は長く，医療資源も限られている．全例を専門医に委ねることは現実的ではなく，プライマリ・ケア医にも一定の対応力が求められている．では，プライマリ・ケア医に何ができるか——そこに本特集の出発点がある．

本特集では，日常外来で遭遇頻度の高い心身症・精神疾患を幅広く取り上げ，専門医が実際の診療場面でどのように考え，診断し，治療方針を組み立てるか，その「頭の中」を具体的に開示していただいた．教科書には書かれない見逃しのポイントや紹介のタイミングなど，現場の機微を惜しみなく共有いただいている．

また本特集の目玉として，心療内科医と精神科医による特別座談会を掲載した．同じ症状を前にしても，両者のアプローチや視点には微妙な，しかし重要な違いがある．その対話を通じて，「からだところ」の診療がいかに多面的であるかが浮かび上がる．専門医同士の率直なやりとりは，プライマリ・ケア医にとっても大いに参考になるはずだ．

ところとからだは相互につながり合っている．本特集がその診療を整理し，現場の一助となれば幸いである．

編集幹事

たけお内科クリニック
からだと心の診療所

大武陽一